

学校名		佐賀市立小中一貫校芙蓉校	達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である
1 前年度 評価結果の概要	・一人一台端末活用を進め、小中一貫教育を意識し、見通しをもって授業実践を重ねたことにより、児童生徒の表現力が向上した。小中の教職員の学び合いを継続しながら、さらなる学力向上を目指していく必要がある。 ・特別支援教育、教育相談、生徒指導が連携して児童生徒の実態把握をし、情報を共有しながら指導・支援に当たることができた。児童生徒の個性や特性、困り感に寄り添うため、さらに全職員が協働して指導・支援に当たるための体制の強化を目指したい。 ・時間外在校等時間の上限を遵守するために、業務改善・教職員の働き方改革を継続して推進する。		
2 学校教育目標	「学び ふれあい 伸びゆく芙蓉」		
3 本年度の重点目標	・児童生徒が主体的に学ぶための授業改善を行い、思考力・判断力・表現力の育成と学力向上を図る。 ・児童生徒の個性や特性に寄り添い、全職員が協働して取り組む特別支援教育の体制の強化を図る。 ・業務効率化と教職員の働き方改革を推進し、年次休暇取得の促進と時間外在校時間の削減を図る。		

4 重点取組内容・成果指標					主な担当者
(1)共通評価項目					
重点取組			具体的取組		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)			
●学力の向上	○児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の実践	○「端末を有効に活用をしながら『個別最適な学び・協働的な学び』を意識した授業づくりを行うことができた」と回答する職員85%を目指す。	・端末を有効に活用をしながら、個別最適な学び・協働的な学びを意識した授業実践を1人1回行う。 ・授業実践後に、実践について職員間で交流することで、全体での学びを深める。	○研究部 ・校内研究各部	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童生徒を85%以上にする。	・人権集会・平和集会や道徳の学習後に振り返りや感想等を書かせ、他者の意見に触れさせ、多様な考えがあることを尊重させる。 ・各学級でグループエンカウンターを実施したり、互いを認め合い感謝し合う言葉掛けの実践を促したりすることを通して、自己肯定感を高める。	○道徳教育推進教員 ・人権・同和教育担当	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○問題行動やいじめの防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組事案対処等)について組織的に対応できると回答した教職員を90%にする。	・5月までにいじめの認知・認知に対する対応マニュアルの見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修を年に2回以上行う。月1回の生徒指導協議会では、必ずいじめ事案と対応について情報共有する。	○生徒指導担当 ・教育相談担当 ・保健主事	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上にする。 ●◎「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒を75%以上にする。	・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・児童生徒の身につけさせたい力を明確にし、キャリアパスポートを活用する。	○キャリア教育担当 ・教務主任	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒を80%以上にする。	・給食だより、保健だよりを発行する。 ・家庭科教諭及び学校栄養職員と連携した食育に関する授業の実践を行う。 ・給食だよりや学校HPの「献立紹介コーナー」等の充実を図り、日々の給食時における食教育を推進する。また、「給食試食会」等を通して、保護者に対し、望ましい食習慣や食事メニューの紹介と啓発を積極的に行う。	○食育担当 ・保健主事 ・学校栄養職員	
	○9年間を見通した生活習慣の形成	○基本的生活習慣を身に付けている児童生徒を85%以上にする。	・小学部は「生活の四つの約束」、中学部は「生活の五つの約束」の趣旨を児童生徒・保護者に説明し、「立腰」等系統性をもって指導を行う。 ・各学期に生活習慣アンケートを行い、その結果をもとに家庭と連携して改善を図る。 ・清潔で整頓された学習環境を常に心がけ、正しい清掃の仕方を学ばせる機会を設ける。	○生徒指導担当 ・清掃担当	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤推進日の設定と実施を徹底する。 ・職員会議等の協議内容を精選しペーパーレスにしたり、終了時間を設定したりして、常に時間を見える化する。 ・校時限の見直しによる短縮された分について職員の退勤時間を繰り上げる。	○教頭 ・副校長	
	○年間を見通した業務遂行の改善	○「今年度及び次年度を見通し、修正を加えながら業務遂行を図ることができている。」と回答する教職員の割合を80%以上にする。	・行事ごとの振り返りを確実に実施し、業務改善の視点をもって次年度の実施内容の見直しを図る。 ・行事や会議を効果的で効率的に削減、縮小し、児童生徒と向き合う時間を確保する。	○副校長 ・教頭	
●特別支援教育の充実	○小中教職員の協働による特別支援体制の充実	○特別支援学級に在籍する児童生徒だけでなく、困り感をもっている児童生徒全ての学習機会を保障するために、意識をもって支援に当たる教職員85%を目指す。	・授業の乗り入れをはじめ、小中の枠を超えた積極的な関わりと指導・支援を推進する。 ・特別支援教育に関する研修会を、ミニ研修を含め年3回実施する。 ・入級児童生徒及び困り感をもつ児童生徒の保護者との面談を計画的に進め、具体的な支援、取り組み内容を保護者に説明する。 ・生徒指導協議会での情報共有を行う。	○特別支援教育Co ・特別支援学級担任	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					主な担当者
重点取組			具体的取組		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)			
○地域連携による共有	○地域とのつながりを感じ、郷土を愛する心の育成 ○コミュニティ・スクールとして地域連携を深める。	○年間の学校支援(GT等)を延べ150名以上とする。 ○「学校はホームページや学校だよりで、学校の様子を地域や保護者に伝えている」と回答する保護者の割合を85%以上にする。	・地域の方をGTとして活用する。 ・地域の方と児童生徒が交流している様子を学校だよりやホームページで紹介する。 ・学校だより「うんしん」を計画的に発行する。	○副校長 ・教頭	